【配信番号 8643☆ 2／2 P】 No. 1
ＪＡゆうき青森 野菜残さ利用し発電 農家負担・コスト削減
◎日本農業新聞 2018年06月26日 朝刊◇ 5面
※無断複製転載禁止
■ELclip2
2018年 6月26日 6：21
「日立キャピタル関連」

ＪＡゆうき青森 野菜残さ利用し発電 農家負担・コスト削減

【ゆうき青森】ＪＡゆうき青森は、発電事業者と協力し、バイオガス発電事業に乗り出した。野菜の洗浄選果施設などから出る野菜残さの処理費用を削減し、有効利用する狙い。生産者が負担する洗浄選果施設の施設利用料が約７００万円削減でき、ＪＡ自己改革で掲げる「農業者の所得増大」の有効事業として期待される。２０１８年度内の稼働を目指す。

バイオガス発電は同ＪＡが所有する土地を利用し、発電事業者である㈱イーパワーと日立キャピタル㈱、日本アジア投資㈱による新合同会社が発電施設を設置する。ＪＡは野菜残さの投入、発電施設の現地管理などを担い、同会社は遠隔による監視・点検、売電事業などを行う。

くわ入れをする酒井組合長（青森県東北町で）

現状、同ＪＡの野菜洗浄選果施設などからの野菜残さは年間で約１６００トンに及ぶ。一部を同ＪＡの堆肥センターで堆肥化しているが、それでも年間の廃棄物処理費用は２０００万円以上になり、今後さらに処理費用の増大が懸念される。

今回のバイオガス発電事業が稼働すれば、施設利用料から野菜残さによるバイオガス代金などを差し引いて約７００万円の費用削減が見込まれる。

同事業の起工式で、ＪＡの酒井一由組合長は「『ゆうきの里』資源循環型農業の実践を掲げている農協として、バイオガス発電事業は重要な取り組み。野菜残さの処理だけでなく、売電機器から発生する排熱のハウスへの利用も考えている」と意欲を示す。